

現道の線形にとらわれ過ぎ ボックスカルバートの先は？

事例の概要

盛土構造のバイパス工事です。既存の町道の線形に合わせてボックスカルバートを設置しました。このため、ボックスカルバートがバイパスに対して斜角になり、町道の見通しが悪くなってしまいました。従来の町道は、視距を遮る構造物がなかったためS字カーブでも遠くまで見通せていました。

原因

既存の法線どおり施工することにとらわれ過ぎて、ボックスカルバートの完成時をイメージしないで設計・施工してしまった。

対応策と教訓

- ・当面の安全対策として、ボックスカルバート

の前後にカーブミラーと注意喚起の看板を設置することとしました。今後は、視距を確保するため、取り付け部の町道の線形改良を行う予定で、道路管理者の町と協議を進めています。

- ・道路の計画、設計段階で町道管理者としっかり協議する必要性がありました。

視界を遮る構造物がある場合や、曲線半径が小さな線形となる場合など、安全な視距が確保されているか照査して、安全な道路となるよう計画しましょう。

道路構造令第19条では、設計速度に応じて必要な視距を確保することが規定されています。

